

そで 袖がらみ

江戸時代の捕物道具の一つです。長い柄の頭部に多くの鉄釘を上下につけ、相手の袖にからませて引き倒して縄をうちました。さすまた、つくぼうとあわせて捕物三つ道具といい、これに寄棒、早縄、松明たいまつを加えて警固六具の六つ道具とします。(ブリタニカ国際大百科事典から引用)

写真掲載の資料は、長さが約2.2mです。

